

稲城野草散策の会

野草スケッチ オカトラノオ (サクラソウ科)



1996/07/02 稲城市坂浜 絵と文 Ta

オカトラノオは6～7月に咲く。

サクラソウの仲間といっても、外見上はまったく似ていない。

それでも、花のつくりがサクラソウと共通しているのだそうである。

そのへんを追及しだすと難しくなる。

私は、サクラソウ科にはこういう咲き方をするグループもあるのだ、というふう

会報第42号 2008年6月14日発行 発行責任者 尼子 房夫

に受け止めている。
通常はそれで十分だ。

理屈はともあれ、オカトラノオはいい花だ。
純白の穂が咲き出すと、それまで濃い緑におおわれていた草原や林縁が明るく輝きだす。

「風光る」というフレーズ（季語だったと思う）がぴったりに感じられる。
雑草まみれの道端では見かけない。

やはり、ある程度の自然度が必要なのだろうと思う。
オカトラノオとよく似た花にノジトラノオ、又マトラノオがあり、どちらも稲城にあったのだが、ノジトラノオは最近姿を消してしまった。
又マトラノオは健在であり、いずれ紹介しようと思う。

観察会でオカトラノオを説明すると、「トラノオですか」というような反応が返ってくることもある。

その都度、「トラノオという植物はないんですよ。これはオカトラノオといいます。植物名は省略してはいけません」と補足を加えている。

日本語の構造は、本質を示す言葉があって、その前に違いを示す形容がつく形態が一般的のように思う。

「トラノオ」が本質と解釈されるらしい。

「でも、トラノオの仲間でもいいんでしょう」重ねて質問が来る。
これが困った問題なのだ。

〇〇トラノオと名づけられた植物はサクラソウ科以外にもある。

- ・ハルトラノオ、ムカゴトラノオ・・・タデ科
- ・ミズトラノオ・・・シソ科
- ・ヤマトラノオ、ヒメトラノオ・・・ゴマノハグサ科

これらをひっくるめて「トラノオの仲間」というのは無茶というか意味がない。

日本語の植物名は、たとえば「トラノオとはかくかくしかじか」という定義があってつけられているものではない。

そんな定義を決める以前に、いわば勝手につけられている。

植物分類学とか科といった概念が導入されたときには、すでに名前が存在していたのだ。

いまさら定義を作って名前を付け替えることは、素人考えでも不可能とわかる。

「困った問題」といったのは、このような名前の混乱についての問題であった。人の名前の場合には、小山田さん、下山田さん、上山田さんをひっくるめて「山田さんの仲間」扱いにはしない。固有名詞については1文字でも違ったら別、ということがわかっているからだ。植物名も固有名詞と同様に考えれば良いのだと思う。

数年前の冬、葛西臨海公園へ野鳥の観察に行った。私は鳥についてはほとんど識別できないし、名前も知らないものが多い。リーダーの後にくっついて説明を受けながら双眼鏡を覗く。「あれがハジロカイツブリです」リーダーが言う。「は～、カイツブリですか」と私。おととと、日ごろの高説?はどこへいったのか。思わず苦笑がこみ上げる。笑ってごまかすしかなかった(^_^)

* * * * *

〔観察記録〕 5月11日 奥多摩溪谷

台風の影響で雨の予報にもかかわらず、23人の参加がありました。午前中は小雨、午後はほとんど傘無しでいけました。奥多摩駅から鳩ノ巣駅までいつもより時間をかけて歩き、ゆっくりと観察出来て良かったと思います。

今回は奥氷川神社の三本杉のセッコクは残念ながら見られませんでした。帰化植物のセリバヒエンソウが広がっていてあちこちで見られました。お渡しした資料に記載のなかった物がけっこうありましたが、特に記憶に残ったものとしては、トウキ、イワウメツル、ラショウモンカズラ、アズサ、キッコウハグマ、ギンバイソウなどでした。(FAM)

◇観察記録(FAM) 広沢さんから説明があったもの(出現順)

フジ(花)、ケヤキ、ミズキ(花)、トキワハゼ(花)、コバノタツナミ(花)、アケビ、ミヤマオダマキ(花)植栽、カシワバアジサイ(蕾)、ミツバアケビ、セリバヒエンソウ(花)、コバノヒノキシダ、ツルマンネングサ、ノカンゾウ、トウキ、バッコヤナギ(花)、ウツギ(花)、クマワラビ、カラムシ、コアカソ、ムラサキケマン(花)、ヒメコウゾ(実)、マルバウツギ(花)、コゴメウツギ(花)、モミジイチゴ、ツタウルシ、ツタ、キブシ、イタドリ、ホウチャクソウ(花)、シラネセンキュウ、ウバユリ、イヌショウマ、シロヤブケマン(花)、ヤマユリ、サラシナショウマ、ミズヒキ、クサイチゴ(花)、ナツノハナワラビ、オオバショウマ、カンスゲ、ヘクソカズラ、シロヨメナ、クマイチゴ(花)、ハンショウツル、イワウメツル、ジャンジン、タチツボスミレ(実)、サルトリイバラ、ツルニンジン、カキドオシ(花)、タチシオデ、ア

メリカスミレサイシン(花)、フサザクラ、レンゲツツジ(花)、ウリノキ(蕾)、ミツバウツギ(花)、ミヤマタニワタシ、ヤブニンジン、オオバノイノモトソウ、カツラ、ツルニチニチソウ(花)、ホタルブクロ、タニウツギ、コバンソウ(実)、クサノオウ(花)、マムシグサ、ツルカノコソウ(花)、タマアジサイ、ゼンマイ、キヨタキシダ、クサソテツ、ヘビネゴザ、ゲジゲジシダ、クジャクシダ、テイカカズラ、アブラチャン、ハクモウイノデ、ヌルデ、ゴヨウアケビ、ニシキギ、フジカンソウ、ミヤマキケマン(花)、オニタビラコ(花)、キツリフネ、ボタンツル、ガクウツギ(花)、ラショウモンカズラ(花)、ヤマトアオダモ、マンサク、アキグミ(実)、シキミ(花)、オオデマリ(花)、アカメガシワ、ハリギリ、ホオノキ(蕾)、イワガラミ、アカショウマ、キバナアキギリ、ノブキ、イカリソウ(花)、コンロンソウ(花)、ヒロハコンロンソウ、チャノキ、ヤマガシユウ、イボタノキ、シロヤマブキ、ユウゲショウ(花)、マタタビ、ミズタマソウ、サンカクツル、ハルニシ、アズサ、キハギ、ベニシダ、イワタバコ、イヌシダ、フクロシダ、コアジサイ、リョウブ、クマシデ、シンミズヒキ、マメツタ、ジュウモンジシダ、ミサキカグマ、ヤマブキ、バイカウツギ、ヒトツバテンナンショウ、オオヒメワラビ、オオバアサガラ、ミツデウラボシ、ノリウツギ、エイザンスミレ、バイカツツジ、エゴノキ、サンショウ、ハシリドコロ、オヤブヅラミ、アワブキ、オニイタヤ、ヨツバムグラ、マルバスマシレ、ツリバナ(花)、ヤブツバキ(花)、ハナイカダ、オシダ、チドリノキ、ヒメウツギ、キラソウ(花)、ヤブタビラコ(花)、ヒメカンスゲ、キッコウハグマ、ギンバイソウ、クワガタソウ(花)、ヤマアジサイ、ヤマキツネノボタン、サワギク、ウワバミソウ(花)、テバコモミジガサ、ウマノミツバ、オカタツナミソウ、オニドコロ、アオイスマシレ、ナルコユリ(花)、ヒトリシズカ(実)、ハエドクソウ、ヤマジノホトトギス、ユキヤナギ(FAM)

〔観察記録〕 5月18日 柳瀬川・金山調節池下見

東所沢駅から線路に沿って歩く道には、色々なものが植えられていて面白い道でした。金山調節池では「おしゃべりるーむ」にアップされた5種は全部見られました。「ショウロウスゲ」「ミズタガラシ」「バラモンギク」「アメリカミスユキノシタ」「ナヨナヨワスレナグサ」です。ここはヤナギも種類が多く、観察場所としていいかもしれません。いろいろな水辺の植物のほか、キショウブがちょうど盛りです。

柳瀬川に沿って秋津に向かう道は以前稲城野草散策の会で行った「清瀬・中里」の後半のコースとほぼ同じコースです。その時期にはカタクリも見られます。

最後にとーはもんさんお勧めの「淵の森」を見て今回の観察会が終わりました。結構歩きました。(FAM)

◇観察記録(FAM) 出現順

ナガミヒナゲシ、チガヤ、コヒルガオ、コバンソウ、イモカタバミ、ショカツサイ、オニタビラコ、オッタチカタバミ、カキノキ、カントウタンポポ、アスパラガス、キョウチクトウ、ハクチョウゲ、イボタノキ、ナンテン、トウネズミモチ、シナヒイラギ、ユスラウメ、ハクモクレン、ツルマンネングサ、メキシコマンネングサ、シラン、コナラ、ヒメツルソバ、トキワハゼ、アメリカイヌホオズキ、サンゴジュ、ヤマボウシ、イチハツ、アメリカフウロ、ヒュウガミズキ、カジイチゴ、キショウブ、ムシトリナデシコ、チャノキ、キウイ、ニガイチゴ、ウシハコベ、カモジグサ、イヌムギ、イシミカワ、カラスノエンドウ、ヤブマメ、ピロードモウズイカ、マスクサ、ケチチミザサ、ビワ、ハナズオウ、ネズミムギ、トボシガラ、クスノキ、ジョウロウスゲ、ムラサキツメクサ、カモジグサ、カゼクサ、チガヤ、トベラ、ニワゼキショウ、ユウゲショウ、コメツブツメクサ、カラスムギ、サンカクイ、マルバヤナギ、タチヤナギ、ヘラオオバコ、ハハコグサ、マツバウンラン、クサヨシ、バラモンギク、ヘラオモダカ、アメリカミズユキノシタ、ナヨナヨワスレナグサ、ケキツネノボタン、ミズタガラシ、アゼナルコ、スズメノヤリ、イグサ、フトイ、ヒエガエリ、イヌコリヤナギ、コゴメヤナギ、カワヤナギ、ヤワラスゲ、キショウブ、シダレヤナギ、オオフサモ、ピラカンサ、カンガレイ、ウンリュウヤナギ、マメグンバイナズナ、ヤクナガイヌムギ、オハビイチゴ、コウガイゼキショウ、オオカワチシャ、マグワ、アズキナシ、エゴノキ、スズメノエンドウ、ニワウルシ、エノキ、ナワシログミ、アオカモジグサ、センニンソウ、センダン、ノイバラ、クズ、ネバリノミノツツリ、ムラサキツメクサ、ケカキネガラシ、ネムノキ、ヌルデ、ケチチミザサ、ハナウド、オニグルミ、エビツル、ヨウシュヤマゴボウ、シュロ、イボタノキ、ヤナギハナガサ、ヤドリギ、スイカズラ、ネズミムギ、カラスムギ、アオカモジグサ、クイモ、コメツブツメクサ、ムシトリナデシコ、ウシノケグサsp、ナガハグサ、ツルマンネングサ、ナガバギシギシ、ホルトノキ?、カルミア、ウツギ、エニシダ、ヤマモモ、ウバメガシ、カナメモチ、ハコネウツギ、ハナズオウ、サンシュユ、モクレン、オオバベニガシワ、マユミ、ガガイモ、ツルウメモドキ、ムラサキツクサ、ツルマンネングサ、ツルニチニチソウ、ハナウド、コムラサキ、セキショウ、ミヤマシラスゲ、ヤブスゲ、ヤワラスゲ、クサヨシ、ノイバラ、フジバカマ、ドクダミ、ヤマウコギ、オドリコソウ、ムラサキケマン、アオギリ、ヤマホトトギス、アオイスミレ、ウバユリ、ソクズ、ヒヨドリジョウゴ、ニワトコ、コモチマンネングサ、クヌギ、サンショウ、ヤブニンジン、イカリソウ、ヤマホトトギス、ヤブヘビイチゴ、ハエドクソウ、サワフタギ、イタドリ、コバギボウシ、ヤマユリ、スイカズラ、フジ、ケヤキ、タチツボスミレ、ヘビノネゴザ、カシワバハグ

マ、ノブドウ、ウグイスカグラ、イヌシデ、ギンラン、シオデ、コブシ、アマチャツル、ミズキ、メヤブマオ、クサイチゴ、ニワトコ、ナンテンハギ、オニドコロ、イヌショウマ、ワニグチソウ、ニシキギ、ノダケ、ナヨクサフジ、カマツカ、ヒルザキツキミソウ、オランダガラシ、ヤマハギ、ツルウメモドキ、マユミ、イモカタバミ、ゼニアオイ、マンサク、ヒメガマ、ナガバヤブソテツ、タケニグサ、キキョウソウ、トウカエデ、オオブタクサ、アカザ、シロザ、ムクノキ、ヤマグワ、ヤマブキ、エゴノキ、エノキ、ヤマホトトギス、ミズヒキ、ゴヨウアケビ、イヌシデ、ヤマザクラ、コナラ、イチョウ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、コバンソウ、ウド、アカシデ、アオハダ、ツリバナ、ミズキ

◇見かけた園芸種：

サルビア・レウカンサ、フレンチラベンダー、オオツルボ、ホンコンカポック、ジャーマン・アイリス、ハーデンベルギア、ヒマラヤヤマボウシ、カシワバアジサイ、マツバギク、キングサリ、アップルミント

〔行事記録〕 5月23日 バスハイク・清里

好天に恵まれ、82名が2台のバスに分乗して、調布を出発しました。高速道路に入るとジャケツイバラの黄色の花があちこちにあって、目立ちました。この辺りにこんなにジャケツイバラがあったんだ。

ほかにはニセアカシア、キリ、ミズキ、フジ、オオキンケイギクなどの花が次々と出て来ました。

清里に到着して、府中市の山荘の遊歩道からスタートして約2時間。林の中を散策。フデリンドウ、ホソバナアマナ、コバイケイソウ、サクラスミレ、ヤマドリゼンマイ、マイヅルソウ、サンリンソウ、ヒメイチゲ、サクラソウ、オニゼンマイ、ヒゲネワチガイソウ、ハルリンドウ、ウスバサイシン、クリンユキフデ、ルイヨウボタン、ニッコウネコノメソウ、ユキザサ、ハルトラノオ、クワガタソウなどなどが次々と出てきました。

次は、バスで移動して、清泉寮へ。ここまで来たらソフトクリームを是非食べて行きたいという要望に応えました。

天女山のオキナグサを見て、今回の観察を終了。最後に、道の駅こぶちざわに立ち寄り、お土産を買って締めくくりました。(FAM)



〔行事予定〕 2008/6/14 (土) 稲城ふれあいの森

項目	説明
集合	am10時、京王相模原線若葉台駅 ※会旗目標 若葉台駅の改札口は一個所だけです
交通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で5駅目 小田急多摩線の場合は、永山駅、または多摩センター駅で、多摩モノレールの場合は、多摩センター駅で京王線に乗換え 若葉台駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	稲城ふれあいの森 (一回りして若葉台駅へ戻ります) 若葉台駅にてpm4時頃解散予定
見所 その他	初夏の草花……オオバノトンボソウ
地図	
コース	若葉台駅→ふれあいの森→(南周遊路)→大塚牧場脇→(休耕田)→正吉苑脇→谷戸→日大グランド脇→若葉台駅 (解散：4時頃) 多少のアップダウンがあります コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

